チートが（ばれたら自分の身が）危なすぎて介入できるか！！

Acta est Fabula

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

チートが（ばれたら自分の身が）危なすぎて介入できるか！！

【Ｎコード】

Ｎ５１２０Ｚ

【作者名】

Ａｃｔａ　ｅｓｔ　Ｆａｂｕｌａ

【あらすじ】

神様に殺されました、けど美人だったので許します。え、チート？いらないから普通に人生を謳歌させて下さい。

プロローグ・・・だけど死にかけます（前書き）

息抜きです。更新遅いです。

プロローグ・・・だけど死にかけます

は～い、どうもみなさんこんにちは、こんばんわ、おはようございます。
この物語の主人公で旧姓「高宮　京」です。
性別は「男」、ＭＡＮ、♂、けして女じゃないっすから名前で勘違いしないように！！
まぁ、今ので分かったかもしれないっすが俺は転生者で神様に殺されてこの世界に転生させられたみたいなんですよ。
そのときの会話をどうぞ。

∇

「申し訳ありませんでした。」

「いや、もういいっすから。顔を上げてくださいよ、きれいな女性に頭下げられるとこっちが恐縮しちまうっす。」

この目の前で頭を下げてる女性（巨乳）俺を殺した張本人で神様らしい。どうやら人間の寿命が乗ってある帳簿にコーヒーをこぼしてしまってそれを拭く時に力を入れすぎたせいか俺の名前が書いたページを破ってしまったらしい。それが原因で俺は心臓発作で死んでしまったわけだが・・・何、神様の女性はみんなこんな美人で巨乳なんですか？目線が神様（巨乳）の胸元に集中するんですけど、頭を下げてることにより胸がぶるんぶるん重力に引かれて動く。目線

を逸らせない！！しょうがないよね！！だって男の子だもん！！

「あの～」

「あっ！！すみません、どうぞどうぞ～話の続きをお願いします」

「は、はい。えっと、こちらの不備で貴方を殺してしまったのであなたには違う世界に転生してもらおうと思っているのですが・・・」

「はぁ～、転生ですか？違う世界って言うのはどんな所なんすか？」

「はい、貴方達が言う二次元の世界、アニメ、マンガの世界ですね。」

アニメとマンガの世界ね～。正直な話あんまりそういうのは見ないんですよね～自分は。友人から何冊かマンガを借りたことがありましたがそれっきりなんですよ。いつもバイトばかりしてましたから。

「それでなんていう世界なんですか？」

「リリカルなのはの世界ですね。」

「リリカルなのは？・・・あ～ＦＯＲＣＥですか？それなら友人からマンガを借りて呼んだことがあります。」

「い、いえ、ＦＯＲＣＥではなくＳＴＲＩＫＥＲＳの世界の始まる前に転生してもらおうかと。」

ＦＯＲＣＥじゃなくＳＴＲＩＫＥＲＳ？。たしかＳＴＲＩＫＥＲＳは友人から聞いただけで全部の内容は知らないんですよね。オッド

アイの女の子が戦艦に乗って「焼き払え！！」ってする話でしたっけ？

「それで転生するに当たって貴方に特典を三つつけようと思っているのですが？」

「特典？それって何ですか？」

「能力や容姿何でも良いので今言った数だけ私が付属させる、言ってしまえば神のご加護みたいなものですね」

ん～正直普通に暮らせたらそう言う特典とかいらないんですよね自分。あ、けど一つだけ使いたい能力ならあった気がする。

「重力制御がいいっす」

「重力制御ですか・・・？そんなマイナー能力で良いんですか？」

「はい。他の二つは神様が決めてください。」

「えっ！！わ、私ですか？」

「正直な話、今の一つしか考えられなくて。あ、ですけどその二つの特典はその世界に合ったものにしてください。」

神様にそう言うとなんだか一瞬考えるそぶりを見せて何かを考え始めた。だけどすぐに頭を上げ少しはっりきってるような顔で俺に言ってきた。

「わかりました！！他の特典は私が考えます！！貴方は後ろにある

白い扉の中に入って今から転移する世界に行ってください！！」

「は、はい、わかりました。」

そういうと俺は後ろを向き白い扉がある方向に歩いて行った。何であの神様あんなに張り切ってるんですかね～。俺は白い扉の前に立つとドアを開けその扉の中に入っていった。

∇

ｓｉｄｅ　神様（巨乳）

「行ってしまいましたか・・・」

青年の後姿が見えなくなるどうやら扉の中に入っていったようだ。

あの青年は私の失敗で殺してしまったのに何も言わずに私を許してくれました。今の人間であんな優しい人はいったいどれだけしかいないんでしょう？しかも、あの欲望の無さ！！特典は一個だけ決めて他の二つを私に委ねるなんて、彼は思いつかないといってましたがきっと遠慮してたんでしょう！！（本当に何も無かっただけです）よし！！決めましたあの人には転生した世界で無事に過ごせるように特典を考えましょう！！え～とたしかＦＯＲＣＥのことは知ってましたよね？なら能力のほうはＦＯＲＣＥからとって、そして魔改造してっと・・・完成！！これであの人が転生した世界で手元に行くように設定してっと！！あ、容姿も変えておきましょう！！容姿はＳＴＲＩＫＥＲＳからえ～と・・・この少年！！この少年の双子の兄にしたら顔立ちも一緒ですしかなりかっこよく成長するはずです！！そして最後にこの遺伝子を入れて・・・完成！！

よし、コレで準備ＯＫ！！私は転生させた人の様子を見ることができないんで助けてあげることが出来ませんが無事に第二の人生を謳歌できるように祈っています！！頑張ってくださ～い！！

ｓｉｄｅ　ｏｕｔ

∇

っと言う感じでこの世界に転生させられました私なのですが・・・なんか分からないっすけど神様がすっごい余計なことをしてくれたせいで危険な目に合いそうな気がするんすよね～。まぁ、神様に決めてくれって行った自分が悪いので文句はいわないっすけど。

で、いまの自分の状況なんですが。

なんか密閉された子供位の大きさのカプセルの中で溺れかかってます・・・

第二の人生早くも終了っすか！！ちょ、たすけ、ごぽごｐごｐ・・・

・

プロローグ・・・だけど死にかけます（後書き）

主人公の性格は俺翼の千歳鷲介の性格を少し優しくした感じです。

更新は不定期です

気づいたら双子でした！！いや、本当は違うんですけどね。（前書き）

初更新！！
あけましておめでとうございます。
皆さん感想ありがとうございます！！
こんな低レベルな小説を見てくださってありがとうございます。
しかもグダグダ！！主人公の口調がばらばらなのは主人公クオリティー！！

気づいたら双子でした！！いや、本当は違うんですけどね。

どうも～皆さんお久しぶり！！プロローグで死に掛けてました高宮京です！！

いや～、本当に危なかったっすよ。気がついたらなんか棒野菜人がはいる回復装置の中に居て溺れかかっていたんですから。普通ああ言うのは酸素マスクぐらいつけますよね？

あのあとすぐ白衣着たおっさんが来たんですけど「実験は成功だ！！これで聖王が――――」とかなんとか言って、溺れ掛けてた自分はそのままブラックアウトその後の会話何か聞こえるわけがないんですよ。

んで気がついたらどっか違う部屋に連れ込まれていたらしく病院服着せられてました。
しかも股がスースーするなと思ってすそを上げれば…パンツ履いてないんすよ！！いくら今は子供の姿だからってノーパン健康法をまさかこの年でするとは思わなかったす。

そのあとまた白衣着たおっさんがきて会話したんですけど。

どうやら自分はクローンとしてこの世界に生まれたらしいんですよ。なんでもある家族が息子さんを早くになくしてその悲しみに耐えられず自分を造ったみたいなんですけど、なんか管理局にばれそうになってこの研究所にすてたみたいなんですよね～。それで俺を貰ったこのおっさんは今自分が研究している実験を俺で実証しようとしたみたいなんですよ。

で、その実験は成功。俺の中に聖王？の遺伝子が刻まれたらしいです、はい。

……うん、生まれてすぐこんなヘビーな話を聞くとは思わなかった。

で、あっという間に俺が生まれて二ヶ月が過ぎた。…なに早すぎるって？だってそんな書くことなんてないんすよ二ヶ月の間なんて全部が実験でしたから。

「兄さん何さっきから呟いてるの？」

「ん、あぁきにすんな独り言だから」

「わかったよ、兄さん」」

「そんなことはいいからお前はさっさと寝たほうがいいぞ明日も実験があるみたいだから」

「…うんそうだね、おやすみ兄さん」

「あぁ、おやすみエリオ《・・・》」

ふぅ～。やっと寝たか。・・・何すか皆さん？え、お前一人じゃなかったのかって？いや～どうやらその家族が作らせていたクローンがなぜか二組作られていたみたいなんすよ。それで自分のほうが大人っぽいから兄と呼ばれるようになったんすけど・・・エリオってどっかで聞いたことがあるような、ないような？

まぁいいか。

あぁそうそう、自分の容姿なんですけどやっぱ双子だからか瓜二つでした。でもエリオが目の色が違うって言ってたんすけど、なんか赤と緑と左右が違うみたいなんですよ。…どこの厨二病患者ですか？まぁそれもいいか。

明日も実験があるから俺も寝るか。じゃあみなさんさいなら～……って

「エリオ！！そこ俺のベッド！！・・・うわ！！よだれたらしながら寝るんじゃねー！！」

気づいたら双子でした！！いや、本当は違うんですけどね。（後書き）

少ない・・・
字数少ない・・・

エリオの兄に転生。
トーマってｓｔｓのとき居ましたっけ？

主人公が実験を嫌がっていない理由。
聖王の遺伝子が入ったことによりおっさんが

「これあんまひどい実験したら壊れるんじゃね？」

たった一つの成功例を壊すかもと言う自信のなさから
実験がすっごく楽になった。

エリオも主人公とおんなじ実験を受けているがやっぱり嫌悪感があるらしい。

急展開！！そして新たな出会い！！

皆様方にお知らせです。

今日未明、違法研究所に勤務している白衣着たおっさん事「ブライ・クロス（４９）」が何者かに殺害されました。管理局はいまだ犯人の手がかりをつかんでおらず捜査はぜんぜん進んではいないそうです。

・・・いや、管理局の連中が殺したんですからそりゃー手がかりなんか出ませんよね。

どうも、高宮京です。急展開も体外にしろって感じなんですが。まぁ、最初におっさんが殺されたことについての説明ですかね。

何でもこの違法研究所は管理局が管理していたみたいなんですよ。で、おっさんは管理局に雇われた違法研究者でどうやらクローンについての研究をしていたみたいなんですよ。でも、研究成果がぜんぜんでないから管理局の奴らがおっさんを殺すことを計画していたんです。成果が出ないものはいらないみたいな感じで。

で、そんなある日おっさんがクローンを二体作った、しかも一体は聖王の遺伝子が入ってるなんて聞かされたら殺す計画は打ち切り、研究成果を待つのがいいんじゃないかと言う風になったんですよ。

でも、一ヶ月、二ヶ月と過ぎていっても研究成果は少しづつしか集まらない。業を煮やした管理局はおっさんを殺してあたらしい研究者に任せようってことになったみたいなんです。

うん、これはおっさんの自業自得のような気もするんだけど。まぁ、そのおかげで俺達はそんなにひどい研究を受けなかったんですけどね。

で、新しい研究者が来てまず実験が変わりました。俺とエリオは別々の研究所に移されて違う実験を受けることになりました、あのときの分かれるときに見せたエリオの顔がすっごい泣いてたのが印象的だった。

「兄さん！！」

「エリオ！！」

「兄さああぁぁん！！」

「エリオォォォォォ！！」

「僕のベッドで涎垂らしながら寝るのやめてぇぇぇ！！」

「それはおまえだぁぁぁぁ！！」

そのときのエリオを連れて行こうとした管理局員がすっごく嫌そうな顔をしていたのが印象的だった。

新しい研究所について最初にやった実験はなんかの薬を投与される

ことでした。その薬が何なのか分かったのは二週間過ぎてからだ。
え、なんでわかったんだって？いや、なんか、少しづつなんですが体が成長してるんですよ。八歳くらいだったのが十五歳くらいに。
えぇ、びっくりしましたよ。鏡見たら伸張高くなってイケメンフェイスがあったんですから。ついでにマイサンも確認。すっごく大きかったです・・・。

で、現在に居たるっと。

「ＮＯ．０１」

「はい」

あぁ、ＮＯ．０１って言うのはこの研究所での名前です。

「いまからお前にこの部屋に入ってもらう。そしておいてあるデバイスに触れてもらう」

「わかりました」

え、喋り方がなんか違う？いつもみたいにうるさくないって？いやいや皆さん、いくら私でも空気読みますよこの状況でアンナ喋り方したら一気に精神崩壊ルートに直行ですよ。

俺は言われた部屋に入ると中を確認・・・できねーよ。部屋んなか真っ暗じゃねーか！！これでデバイスのところまで行けって無理だろ！！そんなことをぶつくさ言ってると急に電気がついた。辺りを見回し前を見てみると・・・

――――――長髪で黒髪のきれいな女性が壁に十字架のように張り付

いていた・・・・全裸で・・・

「ふっ・・・我が生涯に一遍のくいｎ・・ぶっはぁ！！」

「は、博士ＮＯ．０１がいきなり鼻血と吐血してぶっ倒れましたぁぁぁ！！」

「な、なんだとぉぉぉ！！」

いや、いくら精神年齢が二十八歳でも経験がなかったすから。女性の全裸に耐性がないんですよ。

あーあ。鼻血が逆流して口からも血が出てるし。って言うかこの女性がデバイスなんですか？え、デバイスが人間て誰得だよ。しかも全裸って服ぐらい着させろよあのおっさんたち！！

「ＮＯ．０１」

「はい」

おれは立ち上がると服のすそで血を拭いた。

「問題ないか？」

「ありません」

「・・・血を吐いたのにか？」

「…大丈夫です」

「・・・そうか。ならその壁に張り付いているデバイスに触れるの

だ」

部屋の中のスピーカーから聞こえてくる声に答えるとおれは女性に近づいていった。えぇ、あまり女性の体を見ないように近づいています。またさっきみたいになったら溜まったものじゃありませんから。

俺は女性のそばにつくと体を見ないように顔を眺めた。うん、すげー美人。やばい顔が暑くなる。ってまて！！

「触れるってどこに触れればいいんですかね？」

体、それとも顔、それとも足、え、こんなでるとこ出て引っ込んでるとこは引っ込んでるナイスプロポーションのどこに触れればいいんだよ！！

「なにをしている！！早く触れ！！」

あのくそじじぃ！！こっちが青少年の悩みをどうにか抑えようとしてんのにぎゃあぎゃあわめいてんじゃねー！！あぁもうやけだ！！目をつぶってやってやる！！

――――――ふにゅ。

あたりは白く染まり研究所は爆発した。

その時の事を高宮京はこう語る。

えぇ、突然だったんです。何があったのか自分でも分かりません。覚えてるのはマシュマロみたいな感覚だけでした。

急展開！！そして新たな出会い！！（後書き）

感想待ってます。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5120z/

チートが（ばれたら自分の身が）危なすぎて介入できるか！！

2012年1月6日13時45分発行